平成二十四年度

「夏の思い出」俳句集

第一学年

千葉県立松戸向陽高等学校

ごあいさつ

松戸向陽高校で創作俳句の授業を初めて実施いたしました。平成の「今」を生きる、現代の高校生たちの型破りな、そしてフレッシュな感性に驚きを感じております。

俳句という文学には不思議な魅力があります。俳句では、たった十七音の中で一つの世界観を凝縮して表現しなくてはなりません。さらに、有季定型律俳句の場合、夏でしたら「夏休み」「かき氷」など季語を織り込まなくてはなりませんので、実際は十二音ほどの創作活動ということになります。つまり、俳句を創作するためには、ぎりぎりまで言葉を精選する工夫が必要になるということです。この経験は、日頃から饒舌におしゃべりをし、会話文のメールを自由に交換してる生徒たちにとっては、一種のカルチャーショックであるようです。しかし意外にも、とりとめのないおしゃべりに慣れっこになっている生徒たちは、季語を織り込んだ十七音で自分のイメージを読み手に伝えるという活動をゲーム感覚で楽しんでおります。

指導者である我々は、教員といっても俳句創作に関してはしょせん素人です。現実に、自作の句などほとんど持っていないような状態です。しかし、日常を生徒とともに過ごしている援助者として、生徒たちの学びに徹底的に寄り添い、一人ひとりが満足して「自分の生活を俳句に表現する」活動を支援してまいりました。今回の俳句創作では、頭の中だけのありきたりなイメージの連鎖の句ではなく、できるだけ具体的に「その生徒らしさ」が感じられるような作品作りを心がけております（もちろんウマクいかない場面も多いのですが……）。

この俳句集には、松戸向陽高校の生徒の日常がぎっしり詰まっております。素人教員の指導ですので、これらの作品はけっして「秀作」とはいえないかもしれません。しかし、それぞれの作品が、世界にたった一つしかないという意味で『名作（迷作？）』にほかならないと自負しております。

現代の高校生たちの、新鮮な感覚の「ハイク」をごゆっくりお楽しみください！

なお、末筆となりましたが、実践のきっかけを与えてくださった佐久間敦子校長先生、及び作成から掲示まで様々な場面でお手伝いいただきました先生方、並びに十分なる予算を計上してくださいました生徒会の皆さんに深く感謝申し上げます。

第一学年国語科

平成二十四年度　第二回向陽祭にて